

WIPE OUR
OWN ASS
OURSELVES



Ishiki
Magazine



XAO



paint+

「pain+ (ペイント)」は様々な活動を通じ、世の中にポジティブを作る団体です。

2011年3月11日に発生した東日本大震災、および福島第一原子力発電所の事故により、
私たちの国は未だ多くの問題と大きな不安を抱えています。

多種多様なクリエイターと協力し、様々な表現による情報伝達と意思疎通を計り、
時代が抱えている「pain(痛み)」に対して「+(プラス)」の要素を与えることで、未来を明るく彩っていきたいとの願いから、
私たちの活動を統括して「pain+ (ペイント)」と呼びます。

私たちは、様々なクリエイターと共に、作品を媒介としたコミュニケーションを図り、人と人とを繋げることを目指します。

「やりたい事に向き合う事で大きな力が生まれる事を証明する」ため、
一人でも多くのヒトをポジティブにするべく、私たちは活動を続けていきます。

paint+ × **Σ▲■●**
Same Old Shit Street Wear

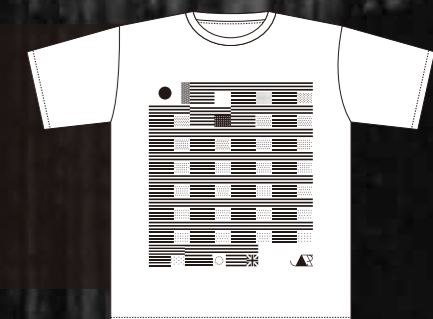
ストリートブランド「SAMO」と「pain+」のコラボTシャツを販売します。

Tシャツの売上は制作費を除き、全額「pain+」の活動資金になります。

価格 4,000円 問い合わせ先 / contact@samo.jp

the histry of
“American Stars”

America has many stars.
It's their glorious history.
Where to go?



Σ▲■●
Same Old Shit Street Wear

低価格で粗悪な「モノ」が、仕掛けられた情報やネームバリューによって売られていく現代社会において、
永らく愛着の対象となる様な、上質で個性を引き立たせる「モノづくり」を追求し、
ブラックカルチャーと呼ばれる文化が培ってきた歴史と美意識を感じさせるアイテムを展開します。

かの天才芸術家「ジャン=ミシェル・バスキア」がスラムの壁面に残したグラフィティの様に、
身につけた人々がストリートに溶け込みつつも、目を引く様なアートピースになってほしい。

そんな願いから、ブランド名である「Same Old Shit」は、
バスキアがグラフィティをかき始めた頃の名義「SAMO -Same Old Shit-」に由来しています。



ダンスを通じて世の中の人々に幸せを提案していく企業

エンターテインメントの中心地、東京渋谷で15年間ダンススタジオ経営をするプレジャーガレージグループ。充実したスタジオ作りや舞台公演・イベントなど、ダンサーたちの表現する場を積極的に作っている。東日本大震災以降、ダンスの力で東北と積極的に関わり様々な支援を行っている。



PLEASURE GARAGE GROUP



www.danceworks.jp

ヒップホップ、ジャズ、ロックン、ハウス、バレエなど多彩なジャンルを揃えたダンススタジオ



www.rei-dance.com

初心者からプロまで一流の先生に習える大人のためのバレエ教室



www.angel-r.jp

初心者からプロまで一流の先生に習える大人のためのバレエ教室



www.odorigokoro.jp

ダンサーが気軽に表現を行えるダンス専門シアター



東日本大震災支援運動

踊心募金 ダンスでこの国を救おう

「ダンスでこの国を元気に」という思いから株式会社プレジャーガレージグループが始めた支援活動

踊心募金チャリティイベントの開催	震災により閉鎖した施設の劇場の再建支援	チャリティーワークショップを開催し被災地の現場に義捐金として寄付
自主公演・編舞の子どもたちを応援	自主スタジオを被災地の子どもの居場所として提供	2012年3月11日の震災5周年の日に自主公演を開催し被災地の子供たちへ寄付
自館の文化ホールへの再建支援	仙台で行われた復興支援イベントにてゲストショーをコーディネート	自館のバレエスタジオにワークショップとして講師を派遣する

Q. ダンスを絡めた東北への支援を積極的に行われていますが、今後の展望をお聞かせください。

これからは東北の方達のモチベーションになる様な企画を展開していきたいです。東北の方々が受け身になる様な支援ではなく、能動的な行動を促すことが大切だと思います。

たとえば、福島の子どもたちが東京の子どもたちの家にホームステイして、ワークスでのレッスンを共に受け作品を創るなど、絆を深め、刺激があ

り、思い出にもなる様な時間を過ごしてもらう機会を創りたいです。その経験を経て子どもたちが次の目標や夢に向かっていくキッカケになれば幸いです。

こんな時代だからこそ若い子達が素直に美しい心そのまま伸び伸びやりたい事をやらせてあげたいですね、やっぱり自分がやりたい事が才能ですから。やはり人も国も変わる為には痛みを伴うもの、この痛みを噛み締め力強く東北の方達と共に歩んでいけたらと思います。

田中浩司

プレジャーガレージグループ代表取締役

Interview with Koji Tanaka

東京は代々木「ANCE」にて毎週木曜日に繰り広げられる
タップダンスとミュージシャンによる生のセッション「足音」。

リズムでの会話が一人一人の気持ちをつなぎ、6年という着実な足跡を刻んできた。
プロもアマも関係なく、大人から子供まで板に上がりチャレンジを楽しむ。
シナリオのないセッションはお互いの個性を引き出し、一夜限りの生の音楽を創り出す。

300回を超える歴史の中でセッションを休んだのは、たったの一日。
東日本大震災の直後、3月17日の木曜日だけである。

たった一度の休みを経て、彼らは現地でのボランティアやワークショップに参加。
被災地での活動を通して東北の実情を知り、チャリティーライブ「タップダンスができる事」を開催する。

翌年から「POWER OF TAP」を立ち上げ、タップダンスで東北と関わり続ける足音crew。
東北に向けてより力強いリズムを刻む彼らの想いとは…
代表の浦上雄次氏に話を聞いた。



6年間で300回を超えるセッションを行っていますが、どの様に始まり、
続いてきたのでしょうか。

最初はタップダンサーのIKKENと
一緒にイベントを立ち上げました。

今では徐々に他のタップダンサーも
スタッフとして協力してくれて
いますし、何よりいつも応援してく
れる人達がいるからこそイベント
が続いています。

セッションの内容はスタート当初
と比べてレベルが上がってきてい
ますね！

東日本大震災直後のたった一度の
休みから、「タップダンスが出来る
こと」を開催されるまでの経緯を、
当時の心境も踏まえ教えてください。

震災発生時は東京も大きく揺れて
パニックになっていましたが、時
間が経つにつれて私自身の生活は
元通りになっていきました。

そこで冷静になって色々考えた結
果、現地に行ってタップダンスの
パフォーマンスをする為、各ボラ
ンティア団体等に寄付をする為
にも自分たちでお金を貯めながら活
動していこうと考え、初めての事
だったので色々試行錯誤しながら
1回目のチャリティーライブを開
催しました。

自分を含め風化していく事が多く
ありますから、このチャリティー
ライブは年1回必ずやろうと決め
ています。

その後「POWER OF TAP」を立ち
上げられていますが、名前に込め
た想いや今後の展望をお聞かせく
ださい。

私はタップダンサーですから、私
達なりの形で今後の復興支援に協
力出来たらと思っています。

タップダンサーの輪で協力して進
めていけたらそれも今後色んな部
分で良いと思いますし、タップダ
ンスの力で皆さんと繋がってい
きたいと思っています



タップダンス見たことありますか？

代々木にある多目的スペースANCE(アンス)というお店で毎週木曜日に開催中。
ピアノやギター、ドラム、パーカッション等の生演奏に合わせて
タップダンサーとミュージシャンが「即興」でライブを行っています。

「タップダンスを身近で見たい」

「お酒を呑みながらラウンジ感覚でライブを楽しみたい」

「以前から興味はあったけど、どこに行ったら見れるのかな？」

そんな方は是非一度Ashiotoへお越し下さい！



ASHIOTO
SINCE 2007



東日本大震災復興チャリティーライブ

Power of Tap 繋がる日本 タップダンス

同時展示

311見えない風景
写真展
小原一真

【会場】 吉祥寺スターハインズカフェ [http://www.mandala.gr.jp/spc]
【出演】 足音 CREW / TAPPERS RIOT / つむぎプロジェクト / Enjoy / りずむ K & 老沼裕貴
【スペシャルゲスト】 橋本 祥 / 吉野 寧浩 (J-CLICK) from 大阪
【料金】 前売 ¥3,500- 当日 ¥4,000- (入場時ドリンク代別途必要)
【ご予約・お問い合わせ】 info@poweroftap.com

2013.09.01 Start 15:00 [open14:00] | Start 19:00 [open18:00]

【Supported by】

BASEMENT : <http://www.basement-tokyo.com/>

STUDIO GANBA : <http://www.gamba-tap.com/>

NATIONAL TAP DAY : <http://www.ntd1991.com/>

TAP DANCE STUDIO TAP IN : <http://www.tapin.jp/>

足音 TAP LIVE & JAM SESSION : <http://ashiotoatap.exblog.jp/>

Capezio : <http://www.capezio.com/>

INTERVIEW WITH

Smile For Future

私達に出来る事 ~未来のために笑顔を!~



「Smile For Future」とは、日本を代表するプロBMXライダー、田中光太郎と内野洋平による、東北に笑顔をお届けする「心の復興プロジェクト」。内野洋平の師であり、10年以上日本BMX界を牽引し続ける田中光太郎に話を聞いた。



日本でBMX第一人者として、業界を築き上げてきた田中光太郎。過去のリザルトやメディアへの出演は数知れず、今ではアパレル、街乗り自転車などもプロデュース。田中が得意とする時代に合わせた活動は、数多くの人が注目している。常に最前線を走る、日本が誇るBMX界のリーダーである。

KOTARO TANAKA



震災後、被災地をまわり仮設住宅などでパフォーマンスを行なう「Smile For Future」を立ち上げ活動をされていますが、BMXを通じて活動を行うに至ったキッカケをお聞かせ下さい。

相手の内野洋平が阪神大震災の経験者で、避難所生活をしてたとき、学校も無ければ遊び道具も何もなくて、退屈な時間がながったという思い出をもとにBMXを持って行ってみんなに楽しんでもらおうと企画しました。2tトラックに、BMX10数台と物資、2人のテントや自炊道具を積み込んで5月に2週間、7月に2週間、計約100カ所の避難所、仮設住宅、小学校、幼稚園、を訪問しました。

パフォーマンスを見て楽しんでもらうこと、とにかくBMXに乗ってもらうのを目的に行きました。

被災地といっても、多様な地域性があり様々な境遇の方々がいらっしゃると思います。現地でも感じた事や印象に残っているエピソードなどあればお聞かせ下さい。

福島県の最後に行った避難所で物資を「頑張って下さい」と言って配っていたら、これから宮城県に行くなら「頑張れって言葉はつかうな!」と忠告を受けました。みんなの上ないくらい頑張ってるんだから、とのことでした。確かに、それから使う言葉も少しえらんで訪問したのを覚えています。しかし、どの場所も凄く暖かく迎え入れてくれて、その忠告してくれた方も当時の状況や現状、そして凄く前向きなこれからの話をしてくれました。毎日のテント生活や無計画で組んだ1日3~5カ所の訪問で体力的に参っていたこともあったけど、いく先で暖かく迎えてもらって、笑顔ももらって、元気を届けに行っているのが元気をもらいに行ってるのか分からなくなりました(笑)そして、元気を届けるのももらうのと、同じことなんじゃないかなと感じました。

プロのBMXライダーを目指して頑張っている若い世代が東北にも沢山いると思います。未来を夢見る若者達にメッセージをお願いします。

過去は変えられないけど、未来は自分次第でどうにでもなる。全てはプラス思考なイメージを持つこと。そして体を動かすこと。『運動』運を動かす。運動して汗をかくて運気を動かしまくろうぜ!!

430 / www.t430.com

Kotaro Tanaka / www.tanakakotaro.com

MOTEL WORKS / www.motelworks.com

DECADE / www.decadeshop.com

どこで遊ぶ？
どこで遊ばせる？



福島県は山や海に囲まれた自然豊かな街です。

住民は大自然の恩恵を受け生活し、

スポーツや遊びもまた自然との共存生活の中で成り立っており、

海遊びや山遊びを存分に楽しみながら、

時には厳しさを学び生活してきました。

インドアパーク建設予定の福島市は人口が多く、

県庁所在地であり福島県の中心です。

福島第一原子力発電所の事故で放出した放射能が福島市の方角へ風で飛ばされた事もあり、

放射線量が高い地域とされています。

警戒区域には指定されていませんが、

福島市の住民は目の前にある放射能と向き合いながら生活を続けており、

安心して遊べる環境を必要としています。

INTERVIEW WITH
F-WORLD
<http://fw-p.jp/indoor.html>

「子ども支援活動」「福島インドアパークプロジェクト」
2つのプロジェクトを軸に子どもたちの未来を考える「F-WORLD」
福島の子どもたちに向け活動を続ける彼らに話を聞く



子ども支援活動 屋外活動時間を限られ、自由に遊べない子どもたちが、自然とふれあいながら体を動かす事の出来る様に、放射線の低い県外などで遊び・学ぶことができる機会をつくる活動。
時間を気にすることなく遊んでもらい、ストレスの軽減を図る。

目に見えない放射能により外出時間が限られる中、福島の子どもたちが直面している問題についてお聞かせください。

学校保健統計調査によりますと、肥満体質傾向の高い子供たちが増えている現状や自然の中で思い切り遊べずストレスを抱えている子供たちが増えている問題があります。

インドアパーク建設の為に、エクストリーマー、音楽関係者、教育関係者などの幅広い人々が集い、有志により活動・運営されていますが、活動の根底にある想いについてお聞かせください。

福島には素晴らしい大自然があり、私たちがその大自然から生まれるスポーツの楽しみ、カルチャーや学びなど、その恩恵を受けて生活してきました。震災から2年強が経ち、除染も少しずつ進み、福島の現状も変わってきてはいます。しかし、不明確な情報に左右され、福島の子どもたちや大人たちは、どこで遊び、どこでコミュニティを作れば良いのか分らないでいます。

私たちは、その忘れ去られつつある福島の大自然かられるスポーツの楽しみ、カルチャーや学びを、複合型運動施設「福島インドアパーク」と言う新しいコミュニティを作り、震災から繋がった全国、海外からの応援を頂いている方たちと、福島の子供たち、大人たちと共に、より良い福島を発信していく想いで活動しています。

震災後、表面化した様々な問題に対して、社会のシステムや人々の意識など多くの点で改善されるべき事があります。そういった中で活動を続けられる皆様が求める「望み」とはなんでしょうか。

行政による、より正確な福島の情報と何も気にせずに暮らせる環境が一番の望みです。現に家族と離れて暮らす人や福島を離れなくては行けなくなった人達がたくさんいます。

NPO法人オンザロード除染活動履歴

- 福島県福島市弁天山除染活動（第一回、第二回合計）
主催 / 福島県 除染企画課 | 参加者数 / 887名
作業実施面積 / 約 4,550 平方メートル
総収集量 / 37 トン (90 リットルのビニール袋で約 6,000 袋)
- 福島県福島市大波地区除染活動（第一回元気祭）
主催 / 福島県 除染企画課・NPO 法人オンザロード
参加者数 / 764 名 | 総収集量 / 14,852 袋
- 福島県伊達郡川俣町秋山宇小長石 町指定天然記念物 秋山の駒桜（第二回元気祭）
主催 / 福島県 除染企画課・NPO 法人オンザロード
参加者数 / 80 名
総収集量 / フレキシブルコンテナ (1トン土壌バック) × 55 バック



福島インドアパーク建設プロジェクト 忘れ去られつつある福島の素晴らしい大自然。その恩恵から生まれるスポーツの楽しみやふれあいによって築かれるコミュニティの大切さを体感できる複合型室内運動施設の建設プロジェクト。
福島の子どもたちに選択肢を作り、カルチャーを発信する場所の創出を目的とする。

インドア施設建設基金 福島の子どもたちに選択肢を！いつでも汗を流して遊べる場所をつくらう！

銀行名 **東邦銀行 二本松支店**

口座番号 **普通預金 1172248**

口座名義 **一般社団法人 F-WORLD**
※お振込名義の前に「フクシマシエン」とご入力ください。

表記名 **シャ）エフワールド**



BOUND

BIWAKO DANCE FES

琵琶湖最北部、「湖北地区」に位置する木之本町。

古くは宿場町として栄え、今なお当時の面影を残す田舎町に、年に一度、多くのダンサーが訪れる。

毎回多彩なゲストを招き行われる「BIWAKO DANCE FES BOUND」は2006年より毎年開催され、2013年で8度目を迎える。地元ダンサーを中心とした地域住民の有志で運営される「祭り」は、若手ダンサーによるコンテストとゲストショーをメインに、様々な出店やライブペイントなどもあり、毎年幅広い年齢の来場者で賑う。

8年の歳月をかけ着実に湖北地区にダンスを根付かせた「BOUND」は、東日本大震災以降、会場に東北の状況を伝えるブースを設置、募金を募り宮城県山元町への物資支援を行っている。

「BOUND」のプロデューサーであり、本マガジン発行人でもあるダンサー「群青」の想いを綴る。



「BOUND」はダンスが全てだった僕に多くの事を教えてくれた。
たった一日の為に多くの仲間や先輩方が時間を割き、共に「祭」を創り上げる。
回数を重ねる中で、笑い合いぶつかり合い、見えていなかった周りの支えに気付かされる。
その度に深い感謝を感じ、絆も強くなっていった。

六回目のBOUNDの年に東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故が起きた。
色々な情報と意見が交錯する中、自分に出来る事はなにかを考えた。
複雑な状況の東北で踊る事は正しいのか。
迷いながらも被災地でのボランティアやワークショップ、復興イベントに参加した。
故郷を追われ懸命に生きる人々を目の当たりにし、ふるさとの尊さを再確認するとともに、
壮絶な状況でも自分の踊りに笑顔を向けてくれる事に勇気付けられた。

東北での経験をふるさとの仲間に伝え、BOUNDを通じて何が出来るかを話し合った。
会議を重ねた結果、被災地へ軽トラックを贈るために、チャリティーイベントとしての開催を決定した。
イベント当日、多くの人たちの協力により予想以上の募金が集まり、無事軽トラック「BOUND号」を届ける事ができた。
その後、再びその地を訪れた際、瓦礫を運ぶBOUND号を見て支援活動の継続を決めた。

2006年の第一回から2013年の第八回を迎えるまでに、本当に多くの出会いと学びがあった。
様々な価値観や様々な想いがあるけれど、意識を重ね合わせ一つの目標に向かうことで大きな力を生む。
みんな一人一人自分だけのルーツを持っていて、そこを想う気持ちを分かち合い広げていけば、絶対に東北へ繋がる。





F-WORLD

BOUND
BIBAKO DANCE FES

ASHIOTO

430 fourthirty
LOW DANCE and LIVE

Same Old Shit Street Wear



desti lounge

Live & Lounge Via

cafe ocean

あの日を境に意識が変わった

目を疑うような景色に生きる人々
未だ拭いきれない不安

悲しみや怒りを超えた感情

なにげない「当たり前」は奇跡の塊だったとようやく気付く

時が流れ
世の中が平静を装っても決して戻れない

それでも
揺るぎなく穏やかに自然の営みは続き
日はまた昇り繰り返す

この素晴らしい自然を守りたい
自然の中で走り回った少年時代
僕らが幼い頃の日常を次の世代にもつなげたい

積み上げられた問題に自分たちが出来ることはきっとある

毎日食べられること
かけがえのない家族や友人
生き方を選び向き合えること
日々の大切さを知り
意識は高まる

僕らにはやり直せるチャンスが残されている
まだ目指すべき光はある

一人一人が東北に意識を向け
少しでも関わりを持つ事できっと何かが変わる

未来は明るいと信じたい

このマガジンが皆さんの意識に触れ、進むべき未来への道しるべになる事を願って

印刷協賛

踊心

取材協力 / 写真提供

田中浩司

浦上雄次

田中光太郎

七島奈緒

安立風太

二瓶由美子

NPO法人オンザロード福島事務局

足音 crew

430 crew

THANKS

久保賢志

大和

二瓶野枝

沼尾英俊

IKKEN

AKKIN

NOBU

Koh Yoshida

内野洋平

安井英貴

上村大輔

富安和陽

渡辺メイ

木澤智

DJ JAVA

渡辺メイ

木澤智

DJ JAVA

Deejay Tetsu

柳谷翔

荒川太一

内藤隼

伊澤寛之

鈴木達朗

吉崎礼生

浅井映博

川浦素群

吉崎小夜子

宮本貴史

1364

牧一心

長尾晃久

Hideyuki Johnny

Angle R Dance Palace

Rei Dance Collection

PLEASURE GARAGE

サブロウ

山下恭平

丹下和太留

篠田宗典

澤田崇史

BBOY PIRANIA

BBOY ZURI

kaeru

BLANKA

shinge2

BOUND 実行委員会

DANCE WORKS

PLANNING
pain+

久保 群青
DIRECTOR / EDITOR

伊藤 聡浩
DESIGNER / EDITOR

SUPPORT MEMBER

yumico michiqusa

小野カローナ

中川真吾

小島朱理

林 準一

大音和弘

坂東邦明